

③新たな作目や品種の特徴を活かした需要拡大

希少きのこ「ヤマブシダケ」の市場開拓と加工食品の開発

「ヤマブシダケ(山伏茸)」を植物工場で栽培し、レストラン等の食材として使用することでヤマブシダケの認知度を上げるとともに、きのこの粉末等を添加した菓子やスープ等の商品開発を行う。

➤ 連携体

農林漁業者

農業生産法人(有)阿蘇健康農園(農業)

完全人工光制御型植物工場で、「ヤマブシダケ」を栽培し、安定供給を行う。

中小企業者

(株)阿蘇バイオテック、(株)岩田コーポレーション、あしきた農業協同組合
(以上、食料品製造業)

「ヤマブシダケ」の調理用市場を開拓するとともに、菓子やスープ、飲料、サプリメント、麺類等の加工食品を開発する。

連携参加者

(株)阿蘇ファームランド(飲食店、各種食料品小売業)

「ヤマブシダケ」を利用したレシピを開発し料理を提供するとともに、「ヤマブシダケ」の成分添加商品を販売する。

サポート機関等

熊本県中小企業団体中央会、地域活性化支援事務局

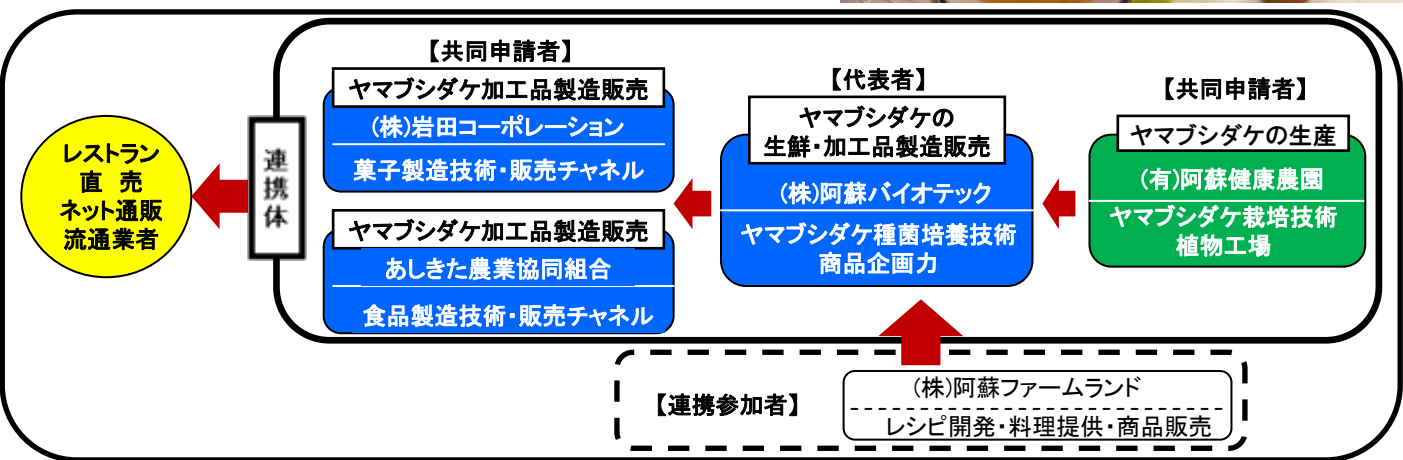
➤ 連携の経緯

(株)阿蘇バイオテックは、「ヤマブシダケ」を阿蘇山中から採取して優良な種菌の培養栽培に成功し、植物工場での生産を可能とした。そこで、アルツハイマー型認知症に効果が期待できるヘリセノン等の有用成分に着目したヤマブシダケの市場化に向けて、きのこ生産農業者や食料品製造業者が連携した。



➤ 連携に当たっての課題や工夫等

植物工場で徹底した品質管理の下に、ヤマブシダケの生産性の向上と周年供給をはかり、高齢者や受験期の若者等をメインターゲットに、生鮮品及び乾燥粉末等の成分添加食品を開発する。開発商品は年間450万人が来場する(株)阿蘇ファームランドの飲食部門や小売部門などを通して販売する。



➤ 連携による効果

農林漁業者

5年で1.44億円の売上高増、ヤマブシダケの安定販売先確保

植物工場における栽培により安定生産が可能となり、生鮮品、乾燥品としての用途が広がる。

中小企業者

5年で3.13億円の売上高増、ヤマブシダケの認知度向上、地元雇用13名増加

ヤマブシダケのメニュー化と地元農産物も取り入れた多様な成分添加商品群の開発が期待される。

➤ 代表企業等の連絡先

企業等名：株式会社阿蘇バイオテック
TEL：0967-63-8100
E-mail：satou@asofarmland.so.jp

所在地：熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽5542-5
FAX：0967-63-8101
ホームページ：http://www.farmland-bt.jp